



いなみ虹保育園病後児保育室 レインボー通信

No.72 2023.03.22.発行



窒息を予防しよう

乳幼児の不慮の事故の中でも多い窒息。実は赤ちゃんだけでなく、小学生以上でも窒息の死亡例が報告されています。事故の予防として何ができるのでしょうか？

喉につまりやすいもの

・パン、米、麺類、団子、もち

9ヶ月～5歳までのこどもの実態調査では、どの年齢においても主食が誤嚥しやすいことが分かりました。

・蒟蒻ゼリー、ミニトマト、ブドウ、バナナ、うずら卵、豆、飴玉
主食に加えて上記の食材が窒息の原因となりました。

・硬貨、スーパーボール、吸水樹脂ボールなどの玩具



噛まずに丸のみしたり、口に詰め込みすぎたりするとキケン！！

粘っこく噛み切りにくいもの、丸くてツルっとしているものは、そのまま飲み込もうとしてしまいやすい。

寝ているときに起こる事故

- ・乳幼児がうつぶせで寝て、柔らかい寝具に埋もれる
- ・ベッドと壁の間に挟まれる
- ・家族の体の一部に圧迫される



起きているときに起こる事故

- ・ブラインドやカーテンの紐が首に絡まる
- ・包装フィルム、シールを剥がして口に入れのどに詰まる



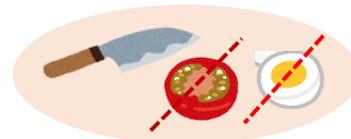
窒息を予防するには？

○姿勢よく食べさせ、早食いや丸飲みをしないよう教える

- ・食品を口に入れたまま遊んだり、話したり、寝転んだりさせないようにする。
- ・泣いている子どもをあやそうとして食品をたべさせるのはやめよう。

○乳幼児期は、食材の形や大きさに配慮する

- ・ミニトマトやブドウ、うずら卵などは4/1にカットする。
- ・豆や餅、飴玉は5歳以下には食べさせないようにする。



○乳児はなるべくベビーベッドで、あお向けに寝かせる

- ・掛け布団は子どもが自分で払いのけられる軽いものにし、そばにぬいぐるみなどを置かない。

○マスクをしている時は特に注意する

- ・マスクをしていると誤飲や誤嚥に気が付きにくい。発達に合わない場合はマスクはつけない。

○危険なものは子どもの手の届かないところに保管

- ・ブラインドやカーテンの紐は、短くくって子供の手の届かないようにする。
- ・年上の子どものおもちゃには小さな部品が含まれることがある。対象年齢になるまでは、遊ばせないようにしよう。

